

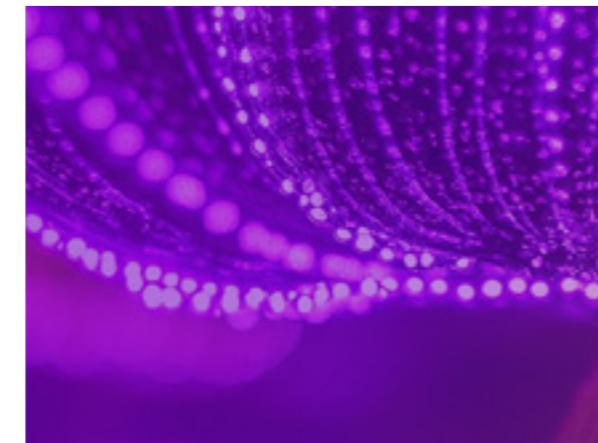
# 責任あるAIで 成功を掴む

「信頼」がAIの価値を解き放つ

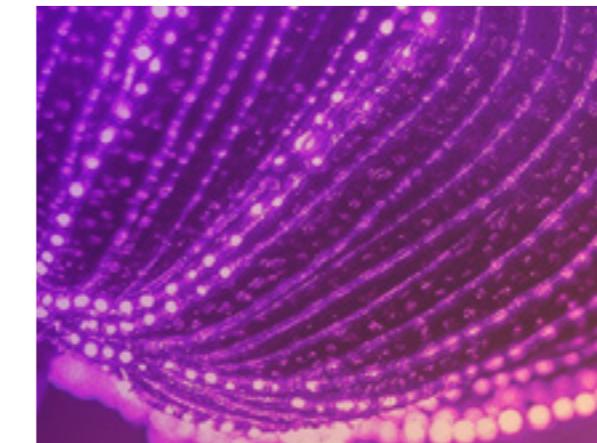
# 目次



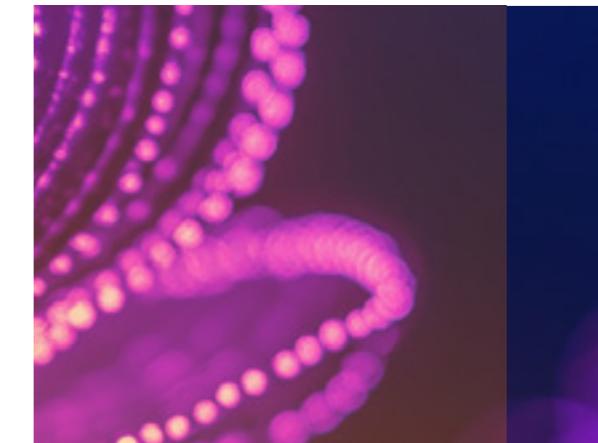
4ページ  
概要



5~8ページ  
信頼、責任あるAI、価値  
についての新たな認識



9~16ページ  
360度バリューの提供：  
責任あるAIの重要な  
バリューレバー



17~21ページ  
責任あるAIの成熟と  
価値創造を加速する

22ページ  
結論

23~24ページ  
付録

25~29ページ  
調査について



責任あるAIは、  
価値創出においても優れた能力を発揮します。

# 概要

世界中のどんなテクノロジーも、私たちが最大限に活用することをためらえば、何の価値も生み出しません。

革新的な可能性を持つAIに対して、企業は慎重な姿勢を取っています。AIが優先課題であると認識している一方で、フォーチュン500企業の56%が、年次報告ではAIを「リスク要因」として挙げており、これは、昨年の9%から大幅に増加しています。<sup>1</sup> AIのリスクを指摘している企業のうち今回の調査対象企業の74%が、「過去1年間で、一時中断せざるを得なかったAIまたは生成AIプロジェクトが1つ以上ある」と回答しています。

堅牢な責任あるAIがあれば、企業内および顧客との間のAIに対する「信頼」のギャップを解消することができます。責任あるAIを実現することで、リスクや規制の変化に迅速に適応し、継続的なイノベーションを促進できます。また、企業が目的と戦略を持ってAIの課題に取り組めるようになり、大きな成果の獲得にもつながります。

アクセンチュアが実施した調査によると、責任あるAIはリスク軽減や規制遵守を支援するだけではなく、価値創出においても優れた能力を発揮することが示されました。この最新調査の対象企業は、責任あるAIが完全に開発されたら、AI関連の収益が平均18%増加すると予測しています。責任あるAIは、企業の顧客満足度、ロイヤリティ、製品の品質、人材の獲得などを向上させます。また、投資期間を短縮して責任あるAIの成熟度をより早く高め、価値創出までの時間を1年以上短縮することが可能になります。

簡単に言えば、責任あるAIは最も理想的なAIであり、AI投資の可能性を最大限に引き出すために不可欠な存在です。RAIをより早く成熟させることで、その恩恵をいち早く享受することができます。

アクセンチュアは、パートナーであるAmazon Web Services (AWS)と協力して15カ国、21業界の1,000人以上の経営幹部を対象としたグローバルなC-suite調査を実施し、責任あるAIが「タイム・トゥー・バリュー (TTV、価値実現までの時間)」と「360度バリュー (財務、リスクと規制、エクスペリエンス、人材、サステナビリティ、インクルージョン&ダイバーシティの6つの指標)」にどのように貢献しているかを調べました。

# 信頼、責任あるAI、 価値についての新たな認識

## 責任あるAIとは？

責任あるAI（Responsible AI: RAI）とは、潜在的なリスクを軽減して価値を創造し、信頼を構築するために、明確な意図に基づいてAIを設計、展開、使用していくアプローチです。責任あるAIを実現するために、企業は原則を策定するだけでなく、その原則を実践し、組織全体で責任あるAIの能力を完全に運用化する必要があります。

## 最高水準の 責任あるAIとは？

完全に開発された責任あるAIはプラットフォームとして機能し、企業の責任あるAIの取り組みにおいて体系的に予測的なアプローチを遂行する能力を備えています。責任あるAIは、専用のリソースとプロセスを開拓して現在および将来のリスクを継続的に評価し、データガバナンスや管理方法に関する新たな知見に基づいて、リスク管理を積極的に適応していきます。また、AIの安全な開発と使用のための新しい基準、方法、アプローチを形成してサードパーティのAIベンダーと積極的に連携し、サードパーティリスクの効果的な管理を可能にします。責任あるAIの完全な開発には、外部のステークホルダー、規制機関、バリューチェーンパートナーとの積極的な連携も含まれており、信頼関係を構築してコラボレーションを可能にすることで、AI活用に関する包括的な責任を担保します。

**25%の企業が、責任あるAIを組み込んだ製品やサービスを提供することで、顧客のロイヤリティと満足度が向上すると考えています。**

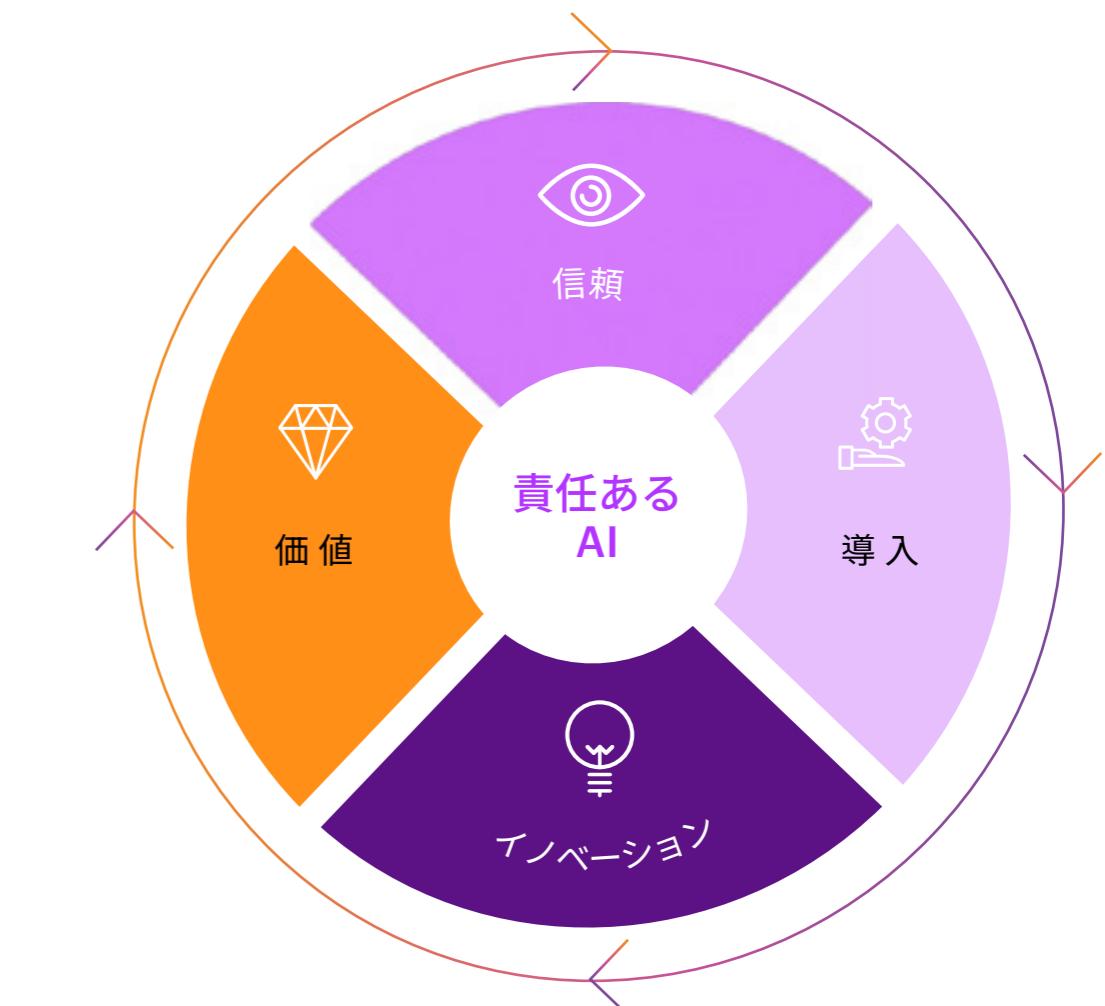
信頼はあらゆるAI戦略の土台であり、AIの導入を促進してイノベーションを生み出し、価値創造を実現します。信頼はAIの価値創造における核となります。

企業がAIを完全に導入するためには、まず、テクノロジーに対する従業員の信頼が必要になります。AIツールは業務を複雑にするのではなく、業務を効率化する存在でなければなりません。利用者が使用時に必要な情報に基づいて判断できるよう、AIから、常に不要なバイアスを最小限に抑えた正確な情報を取得するためには、透明性の高いツールを実装する必要があります。また、ツールだけでなく、組織の文化的変化も同様に管理する必要があります。

企業は、責任あるAIの使用を義務付けるポリシーを策定とともに、従業員にAIのリスクに関する教育を実施することで、従業員がAIを適切に運用できることを確信でき、AI活用で生じる予期せぬリスクを回避することができます。

堅牢な責任あるAIのガバナンス・フレームワークに投資し、AIシステムの説明可能性と公平性を確保することで、AIへの信頼は高まります。そして、信頼はAIの導入を促進してイノベーションを創出します。イノベーションは価値創造とビジネス成長の鍵となります（図1を参照）。

図1：責任あるAIへの信頼が価値を創出するサイクル



## アクセンチュアの調査では、82%の企業が、責任あるAIにおける成熟した取り組みを明示することで、AI導入に対する従業員の信頼が大幅に向上し、イノベーションにつながると考えています。

組織内の信頼は、他のすべてのステークホルダーの信頼を構築するための基盤となります。企業は、従業員、パートナー、顧客、株主、規制当局などのさまざまなステークホルダーから、責任あるAIを実践していることを明確に示すよう求められています。堅牢で信頼できるAIの使用に対する方針を示せない企業は、新規顧客や市場セグメント、パートナーシップの獲得機会を逃すことになります。一方、責任あるAIに対する取り組みについての透明性が高い企業は、協力的なイノベーションを促進し、ステークホルダーの信頼を得るうえでより有利な立場に立つことができます。責任あるAIの成長

は、信頼できるデータから始まります。信頼を構築してリスクを管理するために、AIモデルは、責任あるAIを用いて高品質なデータ基盤上に構築する必要があります。データの偏りは、データプロファイリング技術を使用することで軽減できます。知的財産権の侵害は、IP適合性チェックとコンテンツ権限の検証により対処できます。データドリフトと情報漏洩は、データの品質を適切に評価することで防ぐことができます。AIモデルのパイプラインでは、適切なデータプライバシーの保護とセキュリティ対策で、概念ドリフトのリスクを管理できます。責任あるAIのガードレールが実装されていれば、リスクを特定して是正し、意図しない有害なアウトプットを回避できます。

私たちの業務プロセスや日常の活動に、AIが統合され関わりがより深くなるにつれ、AIのリスクの複雑さの管理が極めて重要になります。AIのリスクに対処できない企業は、AIプロジェクトを拡大してその恩恵を最大化することは、一層難しくなっていくでしょう。

責任あるAIはリスクを軽減するだけでなく、価値を解き放つの鍵となります。また、信頼を構築するうえでも不可欠です。

# 責任あるAIがもたらす2つの利点

## 利点1：リスクの軽減

これまで責任あるAIが、主にコンプライアンス要件、規制上の義務、あるいは事業運営上のコストと見なされてきたことには、正当な理由があります。

直近の調査では、アルゴリズムの不具合からデータ侵害まで、AI関連のインシデント件数は毎年増加し続けています。その件数は過去2年間で32%増加し、2013年以降で20倍も増えています。<sup>2</sup> アクセンチュアの調査によると91%の企業が、今後3年間でインシデントはさらに増加すると予想しています。また、45%の企業が、今後12カ月以内に重大なAIインシデントが発生する確率は25%以上であると考えています。

企業がインシデント件数の増加をなぜ重要視しているかというと、重大なインシデントが発生すると、企業全体の価値が大幅に下落（平均で31%低下）すると考えているからです。

企業は、自社のAIシステムに対して自信を持つ必要があります。プライバシーへの懸念、公平性や安全性の問題、アルゴリズムの偏り、さらにはハルシネーション（事実に基づかない情報を生成する現象）、ディープフェイク、サイバーセキュリティ侵害などの新たな脅威によって正常な意思決定が妨げられると、企業の成長、イノベーション、事業の拡大は不可能になります。また、従業員は失業の不安を抱え、顧客は詐欺やスパムを恐れ、経営幹部は企業の機能不全、評判の失

墜、罰金の発生に脅えることになります。しかし、AIの導入に自信がないままの企業は、自信をつけて先を行く競合企業に置き去りにされてしまうことでしょう。

堅牢な責任あるAIには、脅威を軽減して信頼を構築する能力があるため、責任あるAIを実装することで、自信を持ってAIを使用できます。その結果、既存および新規の両方のユースケースにおいてAIの導入を拡大できるようになります。

## 利点2：価値の創造

責任あるAIの利点は、リスク軽減や規制遵守だけではありません。アクセンチュアが実施した最新調査では、責任あるAIが「財務」「エクスペリエンス」「サステナビリティ」「人材」「インクルージョン＆ダイバーシティ」「リスクと規制」の6つの主要な指標におけるバリューレバー（価値創出の原動力）に大きな影響を与えることが明らかになりました。企業は明確な意図に基づいて責任あるAIを使用することで、中核事業の運営とアプリケーションを改善し、ステークホルダーとの信頼を構築して、AIのイノベーションリーダーとしての地位を確立することができます。

今回の調査では、責任あるAIがどのように価値を実現するのかをより深く理解するために、アクセンチュアの360度バリュー・フレームワーク（図2）を用い、多面的な評価を実施しました。

図2：アクセンチュアの360度バリュー・フレームワーク  
責任あるAIのバリューレバー





360度バリューの提供：  
責任あるAIの重要なバリューレバー

# 責任あるAIは、持続可能なビジネスの成功に不可欠な原動力です。では、企業はどうすればその価値を引き出せるのでしょうか？

## 1. 財務

このセクションでは、企業が財務目標を達成してレジリエンスと成長を促進するために、責任あるAIはどのように貢献しているのか、そのさまざまな方法を事例とともに紹介します。

例えば、**Mastercard**は責任あるAIを実装し、財務パフォーマンスの大幅な向上と、運用効率の改善に成功しています。<sup>3</sup> 同社は、責任あるAIの原則、包括的なガバナンス・フレームワーク、徹底したレビュープロセスを取り入れ、不正検出システムに責任あるAIを実装することで、200億ドルという巨額な不正を阻止することができました。責任あるAIは、業務の効率化、意思決定プロセスの改善、迅速なスケーリングの実現を支援し、大きな価値をもたらしています。同社は、こうした積極的な取り組みによって進化するAIのリスク環境に迅速に適応し、金融分野におけるイノベーションリーダーであり続けています。<sup>4</sup>

### 収益の拡大

- 調査対象企業の約半数が、AI関連の収益拡大を推進するうえで、責任あるAIが重要な役割を担っていることを理解しています。<sup>5</sup>

Rolls-Royceは、新しいテクノロジーを活用して大幅なコスト削減を実現しています。同社はAI駆動のエンジン検査ツール「インテリジェントボアスコープ」の導入により、検査時間を75%削減することに成功し、<sup>6</sup> 今後5年間で最大1億ポンドの検査コストを削減できると試算してい

ます。長期的な成功のために、同社のすべてのAIイニシアチブは、「アレティア・フレームワーク」と呼ばれる責任あるAIの枠組みに基づいて推進されています。<sup>7</sup> この包括的なフレームワークには、ガバナンス、正確性・信頼性、社会的影響に分類される32の原則が含まれており、責任あるAI開発を保証しています。また、AIのバイアスを検出して軽減するためのツールをフレームワークに組み込み、安全性が重視される環境で従業員や顧客との信頼を構築する同社の取り組みを、強力に支援しています。

このフレームワークはエンジンのメンテナンスだけでなくあらゆる業界に適用できるため、教育、がん治療、音楽といったさまざまな領域での新しいコラボレーションも可能になります。<sup>8</sup>

- 64%の企業が、責任あるAIが契約獲得率の向上に強い、または非常に強い影響を与えると考えています。

例えば、アクセンチュアの責任あるAIコンプライアンスプログラム<sup>9</sup>は、透明性と目的志向のAIパートナーとしてのアクセンチュアの評価を高め、責任あるAIの使用に関する新しい基準を確立しました。このプログラムの成功により、アクセンチュアの生成AIによる収益は前年比800%増となり、2024年度（2023年9月～2024年8月）には新たに30億ドル以上の生成AIの新規契約を受注しています。

## 業務効率

- ・責任あるAIの導入により、調査対象企業の70%が「製品品質の大幅な改善」を、66%が「半導体・オートメーション分野の改善」を、67%が「プロセスの工業化／開発サイクルの短縮化」を期待しています。

製品の品質向上やプロセスの自動化や工業化などの分野で責任あるAIを戦略的に強化することで、市場投入までの時間の短期化、品質の改善、生産性の向上を実現できます。高い信頼性と透明性を備えた公正なAIシステムは、追加コストが生じるミスの低減、ダウンタイムの短縮、リソース分配の最適化の成果をもたらします。これにより、全体的な業務パフォーマンスが改善され、収益性が向上します。

世界有数の保険企業である**Allianz**がAIを業務に統合する変革に着手した際も、責任あるAIは重要な役割を果たしました。<sup>10</sup> 同社では「プライバシー＆エシカル（倫理）デザイン」アプローチを採用し、業務全体に倫理的なAI原則を組み込む一方で、ヒューマン・オーバーサイト（人間による監視）と説明責任も確保しています。また、責任あるAIの原則の実践を徹底するためにデータ諮問委員会を設立するとともに、従業員が倫理的なAI原則に沿って行動できるようにワークショップ研修を実施しました。その結果、同グループのダイレクト保険部門である**Allianz Direct**では、スケーラブルなプラットフォーム戦略によって、前年比で約15%の収益増加と、30~40%のコスト削減という成果を上げることに成功しました。倫理基準を維持してAIに関するリスクを回避しながら、AIの財務的価値を実証したAllianzは、責任あるイノベーションリーダーとしての地位を確立しています。

## 信頼とコラボレーションの優位性

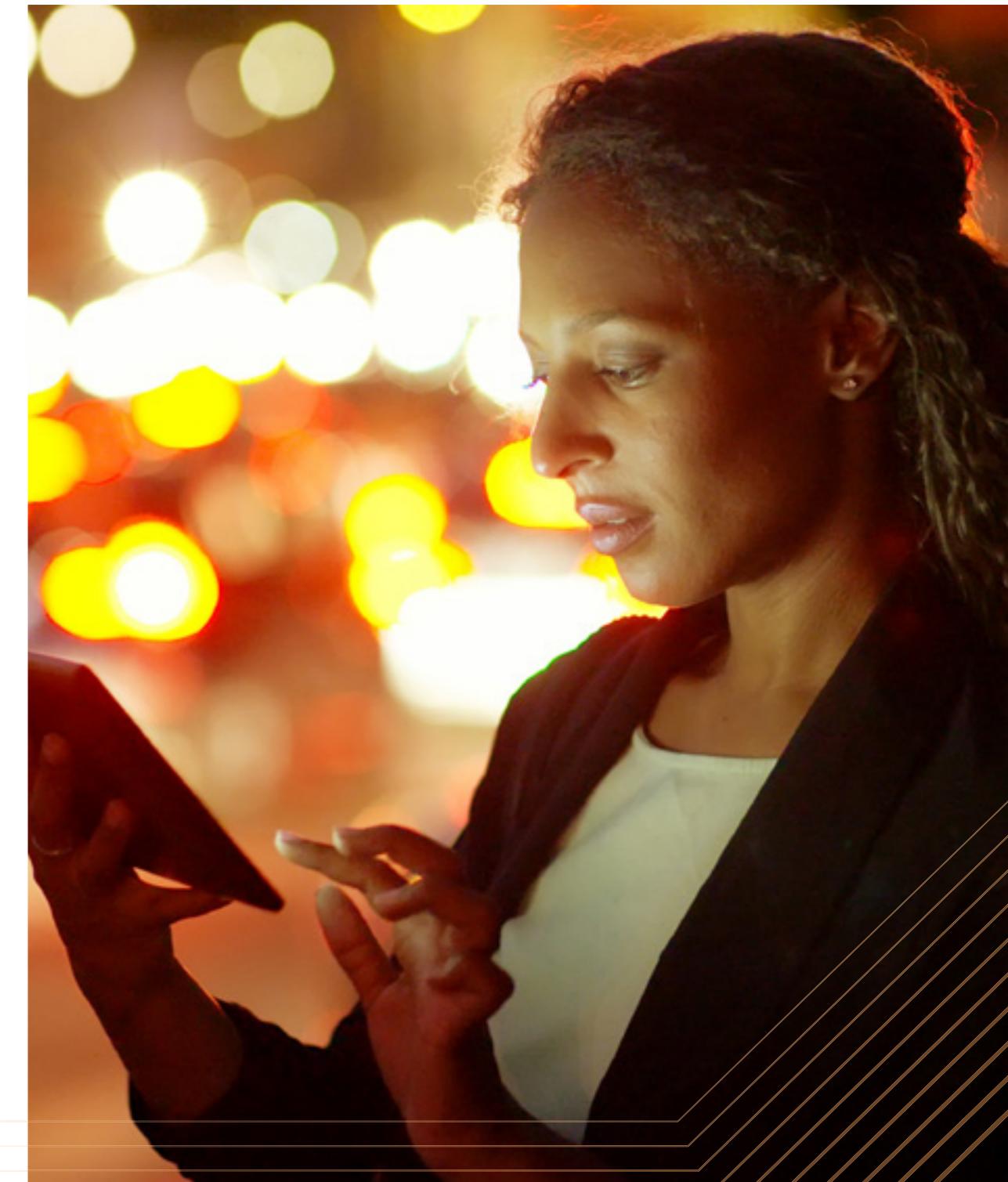
- ・責任あるAIの導入により、調査対象企業の70%が「製品品質の大幅な改善」を、66%が「半導体・オートメーション分野の改善」を、67%が「プロセスの工業化／開発サイクルの短縮化」を期待しています。

Adobeが、クリエイティブ向けの生成AIモデル「Firefly」をAWS<sup>11</sup>上に開発した際に目指したことは、製品の商業的な安全性を確保、消費者への透明性の提供、アーティストやクリエイターの権利の尊重でした。<sup>12</sup> 同社はこれらを実現するために、AIと人間のどちらによって作成された画像かを識別できるコンテンツ認証情報（コンテンツクレデンシャル）機能を実装しました。この機能はC2PAが策定したオープン規格に基づいて開発されており、誰でも自身のツールやプラットフォームに組み込んで利用することができます。同社はこのイノベーションによって顧客との信頼を構築し、Fireflyの利用を一気に促進しました。Adobe Fireflyは、2024年9月までに120億枚以上の画像を生成しています。<sup>13</sup>

## 新たな市場の拡大

- ・66%の企業が、今後3年間で新しい地域、業界、未開拓市場を開拓するうえで、責任あるAIが大きな影響を与えると予測しています。

責任あるAIへの投資は、責任ある行動と透明性がますます重要になっている銀行や医療などの規制が厳格な市場に、企業が新規参入する際にも役立ちます。透明性が高く、責任あるAIを実践することで、企業はより広範で多様な顧客層にアピールができるようになります。





## 2. エクスペリエンス

- ・責任あるAIに投資している企業は、顧客のロイヤリティと満足度が25%向上すると予測しています。
- ・79%の企業は、責任あるAIへの取り組みを明示することで、ブランド認知が大幅に向上すると考えています。

企業が公平性、透明性、説明責任を重視している姿勢を示すことで、より良心的な現代の消費者の共感を得ることができます。

Charlotte TilburyやMax Factorなど、世界有数の大手美容ブランドを顧客に持つ**Beauty by Holition (BBH)**は、美容関連技術のパイオニアです。<sup>14</sup> BBHは機械学習とAIを活用して、メイクアップのバーチャルトライオンや高精度のAI肌診断など、顧客に最先端のデジタル体験サービスを提供しています。BBHのAI肌診断ツール「NeoSkin」は、顧客の購入意欲を5倍に高め、商品との接触時間を2分以上に延長し、コンバージョン率を24%向上させることが実証されています。BBHはこれらの成功の理由を、公平性、透明性、無害性、責任、プライバシー、包括性という6つの基本原則に基づいたレスポンシブルデザインのアプローチを採用したことであると考えています。

BBHは、バランスの取れた独自のデータセットを選択して、肌タイプ、発色、性別、年齢を完全に表現できるように、AIアルゴリズムの機会学習ではバランスの取れた結果が得られるように配慮しています。また、ピアレビューと反復的なバイアステストを用いて、根本的な偏りを明らかにし、データセットをより細かく調整する方法を特定しています。

- ・責任あるAIを実装した製品を提供する企業は、顧客の離脱率と従業員の離職率が21%減少する可能性があります。

顧客の維持は、新規獲得と同じくらい重要であり、顧客離れを最小限に抑えることは長期的な事業成長を維持するうえで不可欠な要素です。責任あるAIに投資する企業は自社の評判にも投資し、顧客中心の経済がますます進む中で持続的な成功の基盤を構築しています。

先述した**Allianz Direct**の事例では、スケーラブルなプラットフォーム戦略が収益拡大とコスト削減に貢献していましたが、もう1つのイノベーションがさらなる恩恵をもたらしています。同社の代表的なAIサービス「60-second claim」は、請求プロセスにおける顧客体験を一新し、世界中のセルフサービス利用率を15%以上向上させました。また、請求プロセスが簡潔になり解決策が迅速に提供されることで、顧客満足度も大幅に向上しています。

# 3. リスクと規制

AIの普及に伴い規制とコンプライアンスに関する課題が山積し、多くの企業が対応に追われています。生成AIの利用が拡大するにつれ、規制リスクを管理し、サイバーセキュリティの脆弱性を保護するために役立つ責任あるAIは重要な存在となります。責任あるAIは、財務面や評判の向上、罰金のリスクの軽減、サイバーセキュリティの強化、新しい法律の遵守などにおいても高い投資対効果を実現します。

## コンプライアンス

- 今後5年以内にAI関連の新しい法規制に適応するための十分な準備ができていると考えている企業は1%未満です。

世界中で、AI、データプライバシー、サイバーセキュリティを規制する新しい法律が適用されつつありますが、ほとんどの企業ではそれらに対応する準備ができていません。米国のカリフォルニア州プライバシー権法（CPRA）、韓国のAI基本法、EUのAI法など、拡大する規制の迷路の中で取り残されてしまわないように、企業は積極的に対応していく必要があります。AIシステムを責任を持って透明性高く運用していくことで、企業は規制の変化に迅速に適応して、高額な罰金や訴訟を回避することができます。

## 法的リスク

- 45%の企業が、今後12カ月以内に25%以上の確率で重大なAIインシデントが発生する可能性があると考えています。

米国におけるAI関連の規制は、昨年だけで56%以上増えています。<sup>15</sup> 新しい法律が次々と制定され、常に変化している状況の中で、コンプライアンス違反には大きなコストがかかります。高額な罰金や法廷闘争、規制当局による監視の強化などへの対応で企業のリソースは浪費され、中核事業に注力できなくなる可能性があります。これらの莫大なコストは、責任あるAIの実装に必要な初期投資をはるかに上回る場合があります。

顔認識技術の開発企業の**Clearview**は、同意を得ずに数十億枚の顔画像を収集したとして、2021年に米国、カナダ、ヨーロッパでプライバシー法違反の法的課題に直面しました。<sup>16</sup> 米国ではイリノイ州のバイオメトリック情報プライバシー保護法（BIPA）に基づき、同社の「Clearview AI」に対する高額訴訟が起きた、カナダの規制当局は同社がプライバシー権を侵害したと判断し、データの削除を命じました。

透明性と公平性が優先された責任あるAIのフレームワークは、高額訴訟や規制上の罰金などのコストが生じるAIのリスクを軽減するために有効です。例えば、**シンガポール金融管理局**（MAS）は、規制の厳しい金融業界における規制遵守の基準を設定しています。<sup>17</sup> MASは、FEAT（公平性、倫理、説明責任、透明性）原則やVeritas、MindForgeプロジェクトなどのイニシアチブを通じて、業界全体での責任あるAIの実践手法を標準化するよう促し、金融サービス機関が責任を持ってAIを活用し、その価値を得られるよう支援しています。

## サイバーセキュリティ

サイバー攻撃は増加傾向にあり、その手口はかつてないほど巧妙になっています。2022年の後半以降、ランサムウェア攻撃は76%増加し、フィッシング攻撃は1,265%も増加しました。<sup>18</sup> また、金融の健全性に特有の脅威をもたらすディープフェイクなどの新たな脅威も増加しており、2023年の第1四半期から2024年の第1四半期にかけて、ダークウェブフォーラムで取引されるディープフェイク関連ツールの数は223%という驚異的な増加を記録しています。<sup>19</sup> これらのサイバー脅威は、ビジネスの中断や復旧にかかるコストだけでなく、顧客の信頼に回復不能な損害を与える可能性もあります。

アクセンチュアの調査によると、企業の約50%がこれらの脅威を特定して封じ込めるまでに10日以上かかっています。そのため、これらのリスクを軽減するうえで、サイバーセキュリティの実務に責任あるAIを統合することが重要であり、その効果は絶大です。

- AIサイバー成熟度が高い企業は、セキュリティ体制が整っていない企業に比べ、1日以内に脅威の封じ込めが完了する可能性が2倍以上高くなります。

- AIサイバー成熟度が高い企業は、セキュリティ体制が整っていない企業に比べ、5日以内に脅威を修復する可能性が1.5倍高くなります。





## 4. 人材

- ・ 82%の企業が、責任あるAIへの成熟した取り組みを明示することで、AI導入に対する従業員の信頼が高まると考えています。

アクセンチュアは、責任あるAIのリーダーとしての地位を確立するために、人材を不可欠な要素と位置付けた責任あるAIコンプライアンスプログラムを開発しました。社内およびクライアントの業務で倫理的なAIを実現するために、アクセンチュアは70万人以上の従業員に責任あるAIの基礎トレーニングを実施し、20万人以上の従業員の責任あるAIに関するあらゆる分野におけるスキルアップを図りました。トレーニングを受講した従業員の25%はデータとAIの専門家です。アクセンチュアは、独自の倫理的なAIの実践方法を確立し、他の企業の手本となるよう努めながら、政策立案者や業界のリーダーと共に業界標準の確立を支援するため役立てています。

同様に、**Amazon Web Services (AWS)** では、安全性、公平性、プライバシーを開発プロセスに組み込み、従業員と顧客への教育を実施することで、責任あるAIのイノベーションをリードしています。AWSには、最先端の研究に取り組み、AWSのAIおよび機械学習（ML）サービスを責任を持って開発するための厳格な方法論を構築することに尽力している、責任あるAIの専門家がいます。また **Amazon** は、2025年までに全世界で200万人に無料のAIスキル教育を提供するための「AI Ready」

イニシアチブの一環として、同社のデジタル学習センターで、責任あるAIの利用に関する無料のトレーニングコースを開始しました。<sup>20</sup>

- ・ 企業は責任あるAIを導入することで、人材の採用にかかる時間を20%短縮し、採用の質を21%向上させ、人材の定着率が21%向上することを期待しています。

## 5. サステナビリティ

生成AIツールの普及に伴い、エネルギー消費も増加しています。これは懸念すべき事態であり、持続可能なグリーンAIの導入が急務であることを示しています。グリーンAIは、AIシステムの環境への影響を最小限に抑えながら、AIの開発と導入における持続可能性と効率性を最大限に高めることに重点を置いています。

グリーンAIを効果的に導入するには、包括的なライフサイクルアプローチを用いて、AIパイプラインの各段階（データ生成、保存と前処理、実験、モデル開発およびトレーニング、モデルの最適化、展開、推論など）において持続可能な原則を適用する必要があります。アクセンチュアの調査によると、グリーンAIを効果的に導入することで、エネルギー消費率と二酸化炭素排出量を約40～60%削減できる可能性があります。

**Amazon**の「Amazon Rufus」は生成AIを活用したショッピングアシスタントで、さまざまなショッピングのニーズや製品に関する質問に答えて、顧客が十分な情報に基づいてショッピングの意思決定を行うことができるよう支援しています。<sup>21</sup>

Rufusは、顧客のニーズに応えるために、世界中で数十億ものパラメータを持つ大規模言語モデル（LLM）を低遅延で提供する必要がありました。

Rufusでは同社が自社で開発した超大規模モデルの深層学習（DL）のトレーニング用MLチップ「AWS Trainium」と「AWS Inferentia」を使って、より持続可能なLLMのトレーニングを実現しています。これらの専用チップは、高速機械学習の他のソリューションとのワットあたりのパフォーマンス比較で最高値を示しています。<sup>22</sup>

Rufusは、Amazonプライムデーに向けて、3つのリージョンで8万個を超えるTrainium/Inferentiaチップをスケールアップしています。

Rufusは、独自の専用チップを使用してワットあたりのパフォーマンスを他のソリューションよりも54%向上させ、同社のRufusチームのエネルギー効率目標の達成に貢献しています。





## 6. インクルージョン&ダイバーシティ

- ・企業は、責任あるAIによって採用の多様性が21%向上すると考えています。

生成AIは業界を変革し、生産性と効率性を向上させています。しかし、LLM（大規模言語モデル）に基づく生成AIには特定のリスクも存在します。適切な対策が取られなければ、人間が作成したトレーニングデータに含まれる、性別、性的指向、人種、宗教、社会経済的地位などに基づくバイアス（偏り）が、アウトプットにそのまま引き継がれてしまします。その結果、AIモデルの信頼性が低下し、AIの進歩が妨げられてその価値が損なわれることになります。

同様に、責任あるAIは企業の採用における無意識のバイアスを軽減するうえでも重要な役割を果たします。アクセンチュアの調査では、企業は責任あるAIが採用の多様性が21%向上し、幅広い候補者にとって魅力のある包括的な採用が行えるようになると考えています。

アクセンチュアの「Connected Customer Experience (CCE)」とAWSの「Amazon Connect」は、生成AIを活用して、すべての顧客に対して一貫性のある偏りのないエクスペリエンス（体験）を提供しています。<sup>23</sup> いずれのソリューションも高度なAIアルゴリズムを使用してリアルタイムで顧客とのやり取りを分析および理解し、発生する可能性のあるバイアスを特定して軽減します。

例えば、AIはエージェントの偏った言葉や口調を検出して中和することで、すべての顧客が公正で尊重された対応を受けられるようにします。



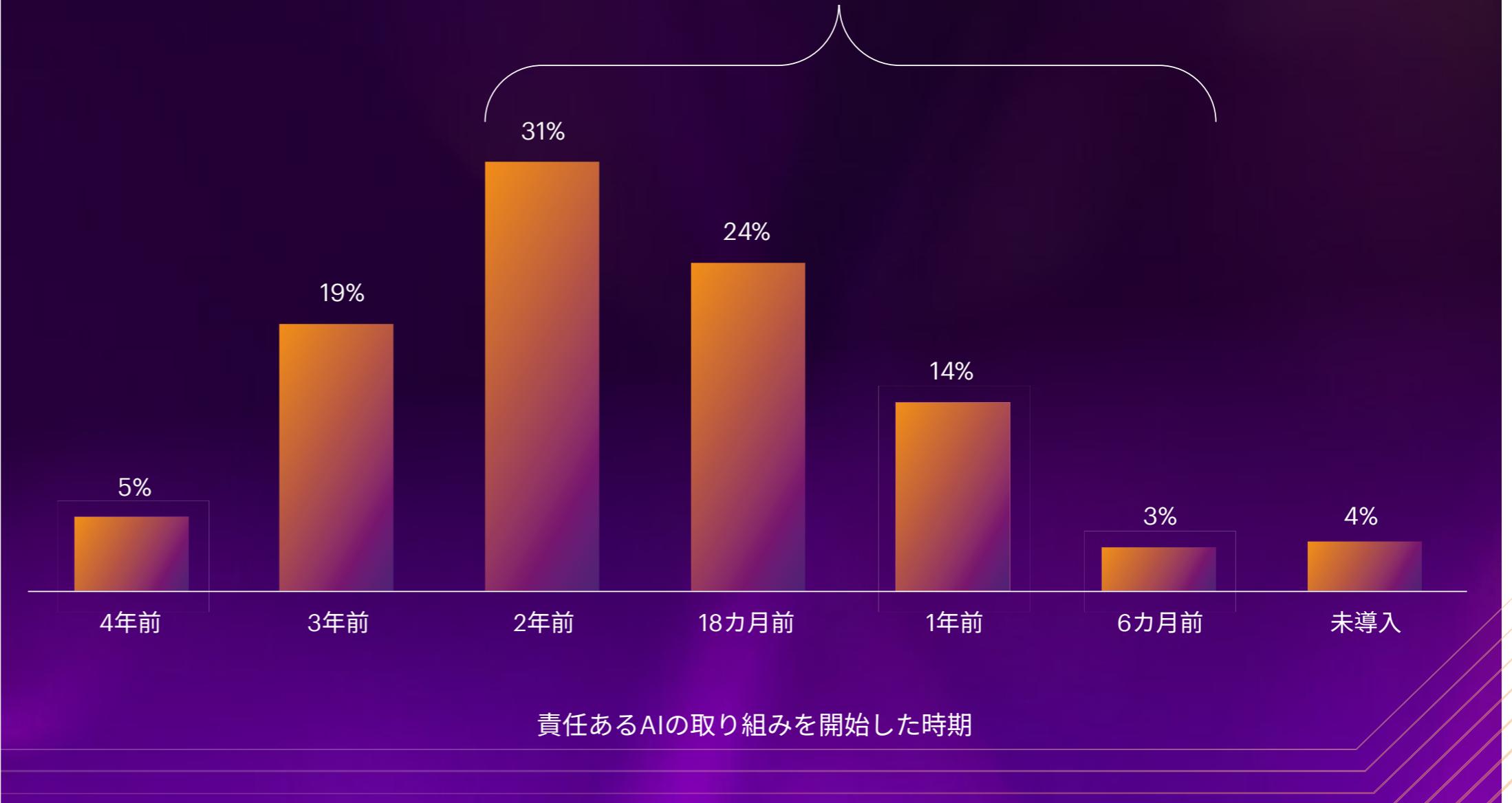
責任あるAIの成熟と価値創造を  
加速する

価値創造の核となるのは、成熟し、完全に開発された責任あるAIの能力です。この能力が発達するほど、企業はより迅速に価値を創出できます。

アクセンチュアの調査によると、72%の企業が「過去2年以内に、責任あるAIの取り組みを開始した」と回答しています（図3）。

図3：企業が責任あるAIの取り組みを開始した時期の分布

72%の企業は、過去2年以内に  
責任あるAIの取り組みを開始している



ほとんどの企業が責任あるAIの取り組みを開始していますが、ステージが進むにつれて重要になるのが、その取り組みがどのような成果を上げ、その期間で責任あるAIの能力をどの程度まで開発できたかという点です。これらを評価するために今回の調査では、アクセンチュアとスタンフォード大学が共同開発した責任あるAI成熟度を4段階で判定する評価モデルを使用しました（表1）。参考までに、各ステージに関する技術的な詳解を付録に掲載しています。

この評価モデルのステージに基づいて、各企業の総合スコアから責任あるAI成熟度レベルを特定した結果、今回の調査では、いずれの企業もステージ4に達していないことが明らかになりました。

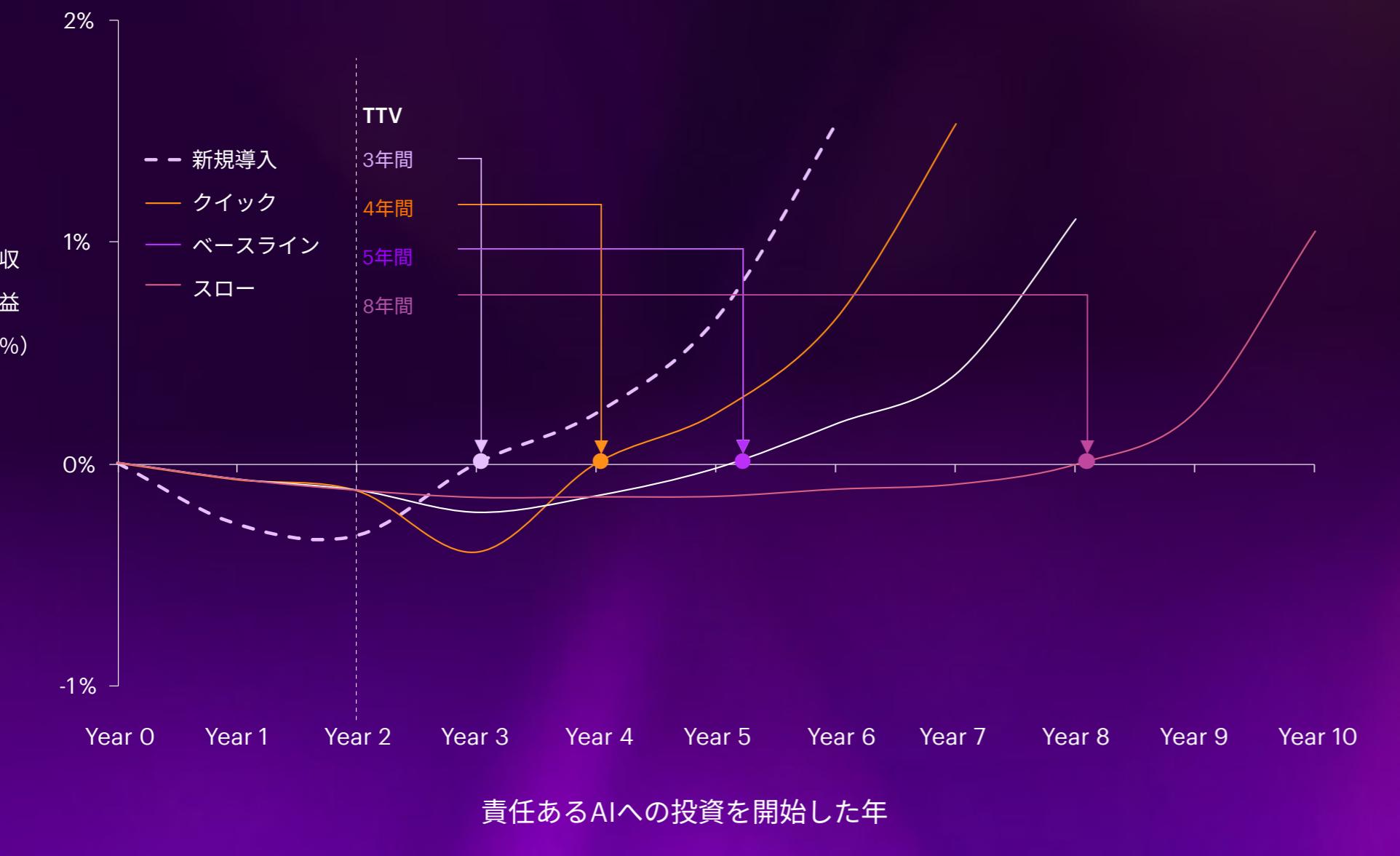
また、ステージ4に到達するまでに平均で約5年かかることも分かりました。この結果は今回の調査で収集した、現在のステージ、18カ月前のステージ、今後18カ月間で移行していると思われるステージに関する企業の回答データを用いて算出しています。今回の調査ではほとんどの企業が、あるステージから次のステージに移行するまでの期間は18カ月ほど必要であると考えており、このロジックで算出すると、現在ステージ2においてすでに2年が経過している企業は、ステージ3と4に移行するためにさらに3年が必要となるため、合計で5年かかるという結果になります。

責任あるAIの価値が重要であることは明確です。前述したとおり、責任あるAIは、360度バリューにおける6つの指標のバリューレバーに強い影響を与えます。

表1：責任あるAIの成熟度のマイルストーン：ステージが高いほど大きく進歩する

ステージ1：	ステージ2：	ステージ3：	ステージ4：
自社でAIシステムを開発するための基礎的な能力は備わっているが、責任あるAIの取り組みは場当たり的に行われている。	責任あるAIの評価を受けて、責任あるAIの戦略、アプローチ、プロセス、ガバナンスを導入しているが、ツールやテクノロジーを用いた体系的な活用は行われてない。	関連する規制および法的義務を満たすために、組織全体でステージ1と2の取り組みを体系的に実施している。	AIの真の価値を引き出し、より体系的で未来志向のアプローチを採用するために、責任あるAIの取り組みをAIプラットフォームを使用して完全に運用化している。

図4：責任あるAIへの投資を最適化することで、タイム・トゥ・バリュー（TTV、価値を実現するまでの時間）を短縮できます。TTVは、年間利益（総収益の増加）が年間の責任あるAIコスト（Capex：資本的支出とOpex：事業運営費）を相殺するまでにかかる期間を意味します。



問題は、責任あるAIの成熟と価値実現までに5年もかかるということです。どうすれば、実現までの期間を短縮できるのでしょうか？

アクセンチュアは、企業が責任あるAIに「All-in」して（全力で取り組んで）投資スケジュールを前倒しし、タイム・トゥ・バリュー（TTV、価値を実現するまでの時間）を加速させるべきだと考えています。図4は、固定された総投資額の配分を変更することで、TTVがどのように変化するかを示しています。

年間売上高が50億ドルの企業が、責任あるAIの取り組みを開始から2年が経過しステージ2の成熟度に達している状態であるとします（図4の「ベースライン」を参照）。ステージ4に到達するまでに5年かかるとすると、この企業のTTVは、責任あるAIへの投資が正味価値を生み出すまでにさらに3年かかることになります。しかし、もし3年目に投資を33%加速したとすると、TTVは1年短くなります。逆に、投資をより長期間に分散すると、TTVは基準から3年延長することになります。これは、責任あるAIの立ち上げが遅れている企業にとっては朗報です。投資初期から積極的なアプローチを取れば、通常5年かかる投資を3年に短縮できる可能性があり、先行投資している競合他社を追い越せるチャンスを得ることができます（図4の「新規導入」を参照）。

アクセンチュアは、責任あるAIの成熟度を高め、その価値創造を実現するための最良のアプローチは、プラットフォームアプローチを採用することだと考えています。今すぐに投資を増やして、プラットフォームの能力を実装することで、より早く価値を実現できるだけでなく、ステージ4により体系的に未来志向の責任あるAIのアプローチに必要な柔軟性と適応力も得ることができます。

# 推奨事項

## 信頼を構築し、AIの価値を解き放つための重要なポイント

リスク環境は常に変化しています。企業はリスク管理に積極的に取り組んで責任あるAIの価値を継続的に引き出すことで、将来に備える必要があります。

### 価値志向でリードする

責任あるAIは、脅威を軽減するだけではなく、価値創出の機会をもたらします。財務実績、エクスペリエンス、コンプライアンスなどの領域で責任あるAIの影響を定期的に測定することで、企業はそれらの具体的なメリットを証明できます。また、明確な指標を用いることで進捗を追跡しやすくなり、改善すべき領域を素早く特定できるようになります。このアプローチは、責任あるAIが単なる事業コストではなく、ビジネス成長の重要な原動力であることをステークホルダーに示すためにも有用です。

責任あるAIは静的な目標ではありません。RAIの能力が成熟するほど企業の価値創造のスピードは加速し、競合他社よりも早く利益を獲得することができます。投資を最適化することで、これらの恩恵をより早く実現することができます。

### 「責任ある設計」を実現する

企業は、責任あるAIをビジネスの中核に組み込み、AIのバリューチェーンのすべてのプロセスで「レスポンシブデザイン」アプローチを採用する必要があります。AIを実装したアプリケーションや業務プロセスには、高い安全性、セキュリ

ティ、透明性を備えた運用を最初から組み込むことが重要です。「Amazon Bedrock Guardrails」などの専用ツールを使うことで、AIアプリケーションや責任あるAIのポリシーとシームレスに連携する独自のセーフガードを実装できるため、企業は社内外のステークホルダーとの信頼関係を築くことができます。<sup>24</sup> 信頼が構築されることで、企業は自信と柔軟性を持って革新を進め、AIの最大限の価値を創出できるようになります。

企業は「責任ある設計」を実現するために、責任あるAIの成熟度によって異なるさまざまな課題に直面することになります。しかし、「責任あるAIの戦略とロードマップの策定」「AIリスクの評価」「責任あるAIのテストの体系化」「継続的なモニタリング」「コンプライアンスの強化」の5つの優先事項に注力することで、すべての企業が責任あるAIの能力を意図的に開発していくようになります。また、5つの優先事項には、労働力への影響、サステナビリティ、プライバシー、セキュリティに対する評価も含まれます。

### プラットフォームアプローチを採用する

テクノロジーの進化が急速に進む中で、企業は責任あるAIの取り組みを急ピッチで進めなければ、永遠に取り残されてしまうかもしれません。さまざまな業界のリーダー企業では、より早く価値を実現するためにプラットフォームアプローチを採用し、責任あるAIを体系的に将来を見据えて運用しています。

プラットフォームアプローチは、すべてのAIイニシアチブに責任あるAIの原則を適用して、スケーラビリティ、リスク管理、運用効率を向上させます。また、多くの場合で自動化も強化し

ます。完全に運用化された、エンドツーエンドの体系的な責任あるAIを実現するために、企業は適切なテクノロジープラットフォーム、プロセス、人材、文化を備えていなければなりません。さらに、企業は予測的なアプローチを採用して進化するテクノロジーと規制環境における将来のリスクを評価するため、専用のリソースを配置する必要があります。

責任あるAIプラットフォームによって、経営幹部が自社の責任あるAIの成熟度を評価したり、リスクスクリーニングを実施したりできるようになります。これにより、企業はデータガバナンスおよび管理の実務を継続的に改善し、予測分析やリアルタイムのデータモニタリングを用いてデータがAIシステムに与える影響をより適切に把握・管理することができます。また取得した情報に基づいて、データプライバシーの保護、モデルの説明可能性、バイアス測定などのアプローチによって、安全なAIの開発と使用のための新しい基準を策定できます。プラットフォームアプローチでは、法律や規制要件などの主要な要素も統合されるため、企業はコンプライアンスのニーズに迅速に適応できるようになります。

企業は、「AWSを活用したアクセントの責任あるプラットフォーム（Accenture Responsible AI Platform powered by AWS）」（付録を参照）などの既存のプラットフォームを導入して、責任あるAIのコアとなる要素を統合することで、企業全体のコンプライアンスの監視、テスト、修復の継続的なサイクルを構築することができます。<sup>25</sup>



# 結論

## 信頼がなければ、進歩もありません。

これまで、責任あるAIはリスク軽減の単なる手段とされていましたが、現在は価値の原動力であることが認識されています。

信頼はすべての責任あるAIの戦略の核であり、信頼がAIのトランステック（革新を促進する技術）としての可能性を解き放つ鍵となることを、企業は理解し始めています。そして、アクセンチュアの調査結果はそれらを証明しています。現在、責任あるAIはビジネス全体で360度バリューにおける原動力であると認識されており、その影響は、業務効率、株主の信頼、人材、コンプライアンスに至るあらゆる領域に及んでいます。そして、特にイノベーションにおいて注目すべき役割を果たしています。

AIは単なる新しいテクノロジーというだけでなく、クラウドやインターネットと同じように、私たちの世界を再構築する存在です。一般に、新しいテクノロジーを積極的に採用し、創造的に活用するための俊敏性を持っているのはスタートアップ企業であると考えられています。しかし今は、たとえ大企業であっても自社のAIプロジェクトを一時中断したり、他社の成功事例を待ったりしている時ではありません。AIが価値を生み出すチャンスは非常に大きなものだからです。企業は、今すぐ自社のリソースをAIに投入し、スタートアップ企業と同じ熱量で行動してAIの価値を引き出す必要があります。

責任あるAIをビジネスの中核に組み込み、価値志向でリードし、より迅速なプラットフォームアプローチを採用することで、信頼から始まる価値創出までの道筋を見いだすことができます。企業は、AIガバナンスのフレームワークと原則を策定してAIのリスク評価を実施するとともに、適切なツール、テクノロジー、資産を駆使して体系的な責任あるAIを実現していく必要があります。幅広いAIイニシアチブへ投資する時と同じ熱意を持って責任あるAIに投資している企業は、その行動がビジネスに実質的な価値をもたらすことを確信するでしょう。

**AIテクノロジーのリーダー企業となり期待する投資リターンを実現するためには、まず、責任あるAIのリーダー企業になる必要があります。**

## 付録

### 「AWSを活用したアクセンチュアの責任あるAIプラットフォーム」 (Accenture Responsible AI Platform powered by AWS)

AWS上に構築されているアクセンチュアの責任あるAIプラットフォームは、企業が、責任あるAIのコアとなる要素を統合し、企業全体のコンプライアンス監視、テスト、修復の継続的なサイクルを構築できるよう支援します。このプラットフォームはAWSワークフローに最適化されており、責任あるAIのための資産、オープンソースツール、業界標準を統一ビューで確認できるため、企業のワークフローや業務プロセスに責任あるAIをシームレスに組み込むことができます。また、順を追って直感的に操作できるように設計されているため、経営幹部が自社のAI活用の準備状況や成熟度を評価したり、複数の業界のベンチマークデータを使用したリスクスクリーニングを実施したりすることもできます。

この新しいプラットフォームを使用することで、AIのリスクを特定・把握して適切なリスク軽減策の開発が可能になるため、急速に変化する規制に適応するための必要なアクションを容易に判断できるようになります。このようなプラットフォームの柔軟性は、特に生成AIの試験導入や加速する技術革新への対応において重要です。

## 責任あるAIの成熟度のマイルストーン

Accentureとスタンフォード大学は、今回とは別に実施した共同調査の中で、企業の責任あるAIの成熟度を評価するための4段階のフレームワークを開発しました。成熟度のステージが上がるにつれて、AIの成熟度も高くなります。このフレームワークを用いて、今回の調査対象企業1,000社を成熟度に応じて各ステージに分類し、企業の成熟度と運用の成熟度の2つのスコアを評価しました。

### ステージ1：

**自社でAIシステムを開発するための基礎的な能力は備わっているが、責任あるAIの取り組みは場当たり的に行われている。**

- ・安全なデータのアクセスと使用に関するポリシーとルールを含む、倫理的な責任あるAIの原則とガイドラインが定義されている。
- ・データ品質、データプライバシー、データセキュリティ、AIモデルのリスク管理の統合プロセスが確立されていない。
- ・データやAIプロジェクトに対するリスク評価レビューを時々実施している。
- ・データパイプライン、モデルパイプライン、AIアプリケーション全体に対する責任あるAIの評価が体系的に統合されていない状態で、AIプロジェクトのワークフローを展開している。

### ステージ2：

**責任あるAIの評価を受けて、以下の取り組みを実施している。**

- ・責任あるAI戦略を策定し、ビジョンを具体的な行動に移すための明確に定義された運用モデルとデータおよびAIガバナンスを整備している。
- ・データパイプライン、モデルパイプライン、AIアプリケーション全体のAIリスクを評価するための堅牢なアプローチとプロセスを定義している。
- ・適切な意思決定を行うためのトレーニングデータ、モデルの入力と出力の透明性と監査可能性を確保するためのプロセスを確立している。
- ・プロジェクトのワークフローの中で実行するため、データおよびAIパイプライン全体の監視および管理フレームワークを設計している。
- ・運用の成熟度は初期段階にあり、ツールやテクノロジーを用いた体系的な運用体制が整備されていない。

### ステージ3：

**関連する規制および法的義務に適応するために、組織全体で以下の取り組みを体系的に実施している。**

- ・組織全体で、責任あるAIの原則、ガイドライン、プロセスの実装から運用化までが完了している。
- ・データパイプライン、AIモデル、AIアプリケーション全体のリスク評価の実施、モデルライフサイクルのすべてのプロセスの追跡可能性と透明性の確保、定期的な監査によるコンプライアンスの遵守を実現している。
- ・データソーシングにプライバシーフィルタリング、匿名化、検証を実装してデータに含まれる機密情報を削除することで、セルフサービスツールに組み込まれたデータバイアスのリスクを軽減している。
- ・モデルの解釈可能性ツールを用いて体系的なAIテストを実施して説明可能性を確保するとともに、AIモデルのバイアスや精度などのパフォーマンステストを実施して、AIモデルが法的、倫理的、運用上の正常な境界内で動作するよう保護している。
- ・データとAIバリュー チェーン全体を継続的に監視して意図しないリスクや違反を警告・修復でき、人間による制御も可能な、責任あるAIコントロールプレーンを実装している。
- ・従業員のトレーニングとスキルアップのために責任あるAIに関する講習を実施し、責任あるAIの導入を促進している。

### ステージ4：

**AIの真の価値を引き出し、より体系的で未来志向のアプローチを採用するために、責任あるAIの取り組みをAIプラットフォームを使用して完全に運用化している。**

- ・テクノロジープラットフォームを活用したエンドツーエンドの体系的な責任あるAIの取り組みを完全に運用化し、適切な人材と文化を確立してプロセスを再構築している。
- ・責任あるAIの取り組みに予測的なアプローチを採用し、専用のリソースやプロセスなどを導入し、現在および将来のリスクを継続的に評価している。
- ・テクノロジーや規制環境の変化に、データおよびAIのリスク管理と制御プロセスを柔軟かつ積極的に適応させている。
- ・予測分析およびリアルタイムのデータモニタリングを実施してデータがAIシステムに与える影響を動的に管理し、データのガバナンスと管理方法を継続的に改善している。
- ・データプライバシーの保護、AIモデルの説明可能性とバイアス測定、敵対的テスト、レッドチームなど、AIの安全な開発と使用のための新しい基準、方法、アプローチを策定している。
- ・責任あるAIを実践するリーダー企業として認められており、外部のステークホルダー（バリューチェーンのパートナー、規制機関、その他影響を受けるコミュニティなど）と積極的に連携し、コラボレーションと包括的なフィードバックを通じて将来を見据えた規制遵守の実践を支援している。
- ・サードパーティのAIベンダーと積極的に連携し、改善を促進して信頼関係を構築し、AIのサードパーティリスクを効果的に管理するための新たなコラボレーションの機会を創出している。



# 調査について

## 著者

アルナブ・チャクラボルティ  
最高責任AI担当役員、アクセント



ジェニファー・ジャクソン  
グローバルAWSビジネスグループリーダー、アクセント



アリストー・フレーザー  
グローバルリーダー、アクセント  
パートナー、AWS



カルティック・バラティ  
ディレクター、PMT、MLOps & MLガバナンス、AIプラットフォーム、AWS



## 謝辞 | アクセンチュア・リサーチ

シェカール・テワリ  
マネジャー、責任あるAI

ユーフィ・ション  
マネジャー、経済モデルとデータサイエンス

ヤクブ・ヴィアトラク  
スペシャリスト、ヒューマンインサイトチーム

フィリップ・ルシェール  
マネージングディレクター、グローバルイノベーションリード

プラビーン・タングトゥリ  
プリンシパルディレクター、グローバルデータ&AIリード

パトリック・コノリー  
マネジャー、責任あるAIのグローバルリーダー

ビジョイ・アナンドス・コイツティ  
編集マネジャー

デブラジ・パティル  
スペシャリスト、ヒューマンインサイトチーム

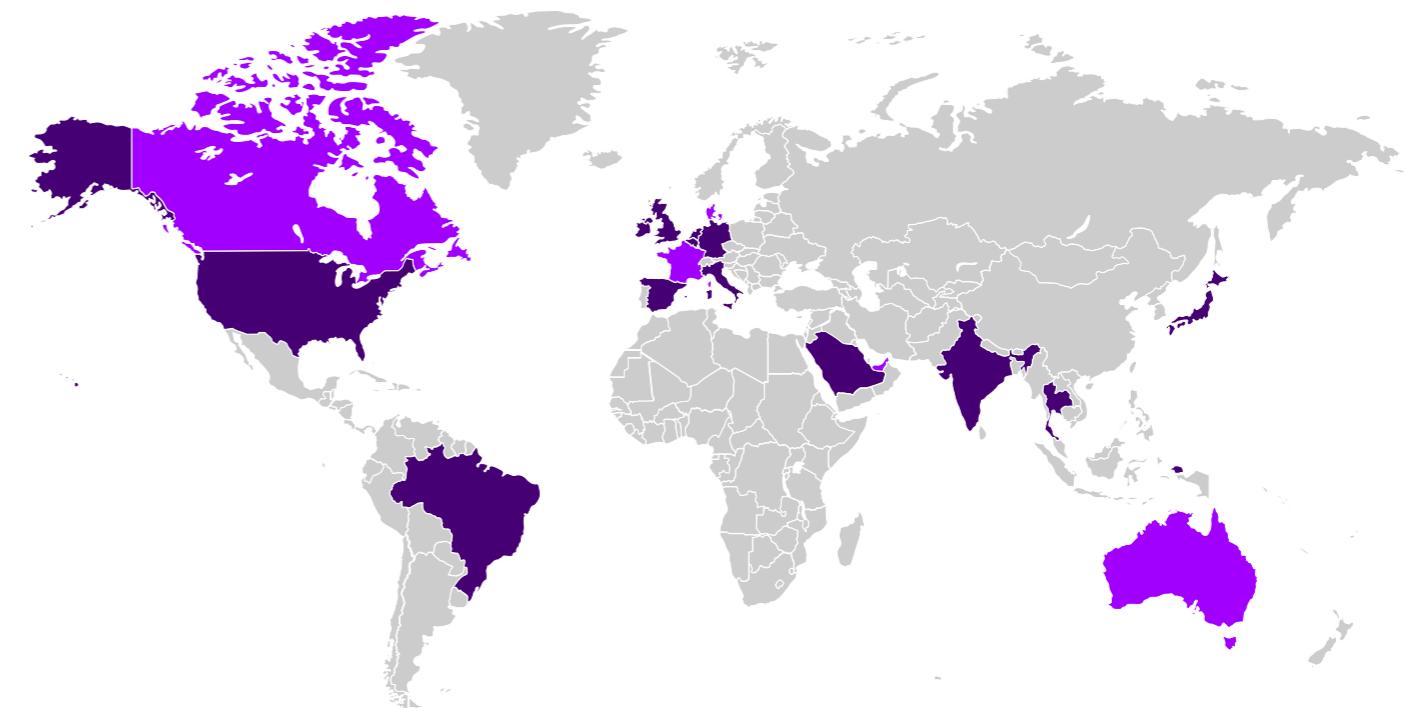
デビッド・キンブル



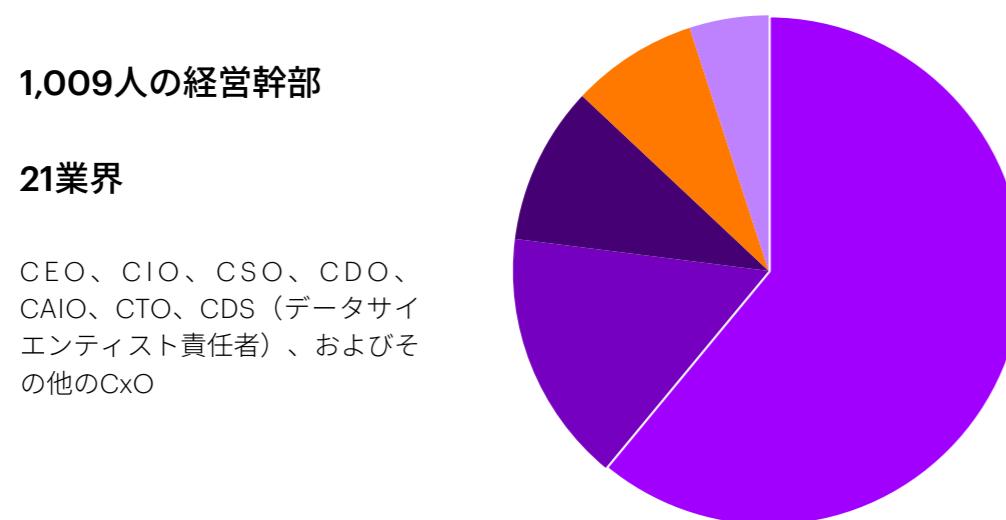
# 調査について

今回の調査は、15カ国、21業界の世界最大規模の企業（年収10億ドル以上）の経営幹部1,009人（CEO、C-suite、CAIO、データサイエンスリーダーを含む）を対象に、2024年9月～10月にかけて実施しました。

本調査は、責任あるAI（RAI）への取り組みにおける企業の進捗状況、戦略、実践状況を明らかにすることを目的とし、企業がRAIモデルをどのように設計、開発、展開して、財務的および非財務的な価値を生み出しているかを理解することを目指しています。調査では、RAI戦略、モデルガバナンス、リスク管理、データ品質、セキュリティ対策、人材開発、エコシステムとのコラボレーションなど、幅広いトピックを取り上げています。



## 企業規模



## 21業界

CEO、CIO、CSO、CDO、CAIO、CTO、CDS（データサイエンティスト責任者）、およびその他のCxO

- 500億ドル以上
- 200億～500億ドル
- 100億～200億ドル
- 5億～9.9億ドル
- 4.9億ドル以下

## 21業界

- ・ 航空宇宙および防衛 (37)
- ・ 自動車 (66)
- ・ 銀行 (66)
- ・ 資本市場 (41)
- ・ 化学 (52)
- ・ 通信 (58)
- ・ メディアおよびエンターテインメント (43)
- ・ 消費財およびサービス (52)
- ・ エネルギー (46)
- ・ ヘルスケア (30)
- ・ ハイテク (62)
- ・ 産業機器 (55)
- ・ 保険 (55)
- ・ ライフサイエンス  
-バイオ医薬品 (36)
- ・ ライフサイエンス  
-医療技術 (36)
- ・ 天然資源 (55)
- ・ 公共サービス (30)
- ・ 小売業 (61)
- ・ ソフトウェアおよびプラットフォーム (40)
- ・ 旅行および輸送 (35)
- ・ ユーティリティ (53)

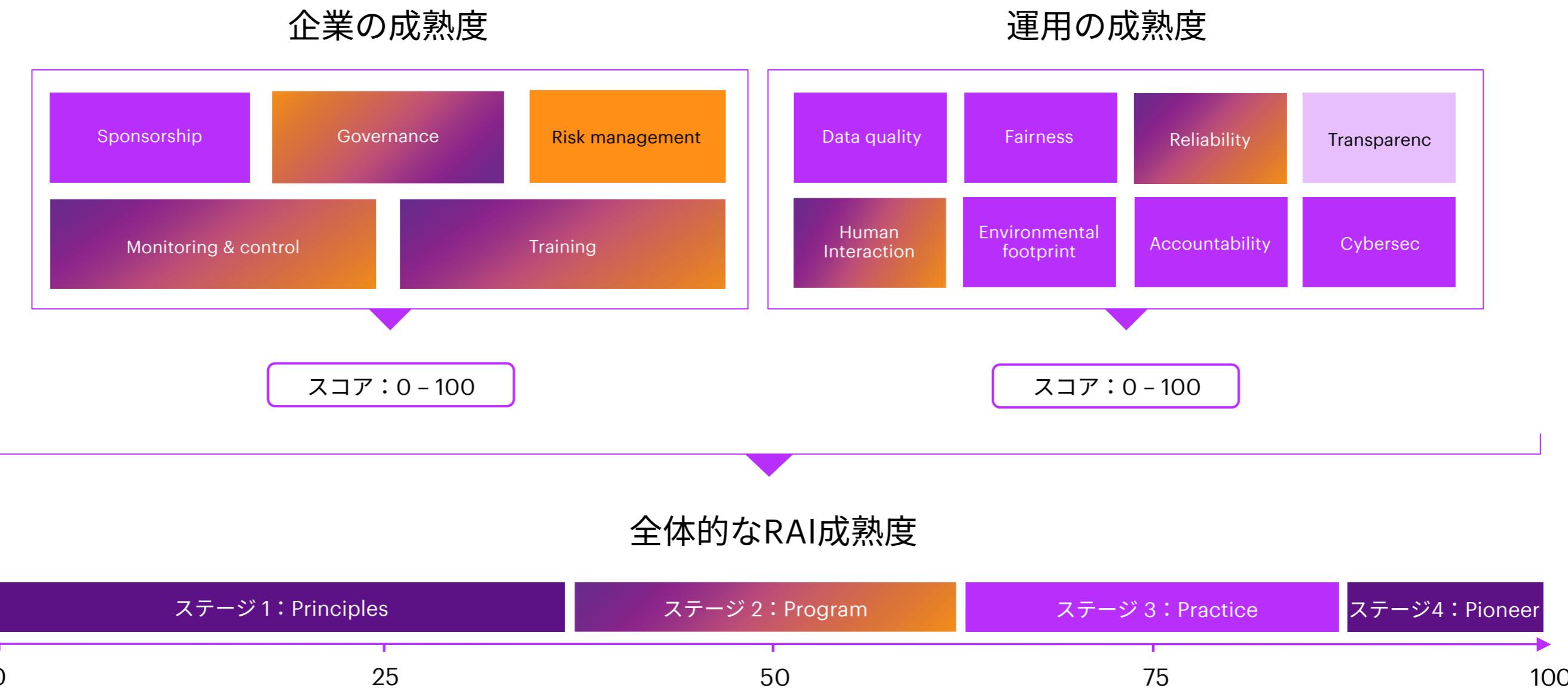
## 15カ国

- ・ オーストラリア (57)
- ・ ブラジル (42)
- ・ カナダ (38)
- ・ ドイツ (81)
- ・ フランス (68)
- ・ インド (73)
- ・ イタリア (36)
- ・ 日本 (80)
- ・ サウジアラビア (15)
- ・ シンガポール (24)
- ・ スペイン (49)
- ・ タイ (32)
- ・ イギリス (99)
- ・ 米国 (300)
- ・ アラブ首長国連邦 (15)



# 方法論：責任あるAIのインデックス

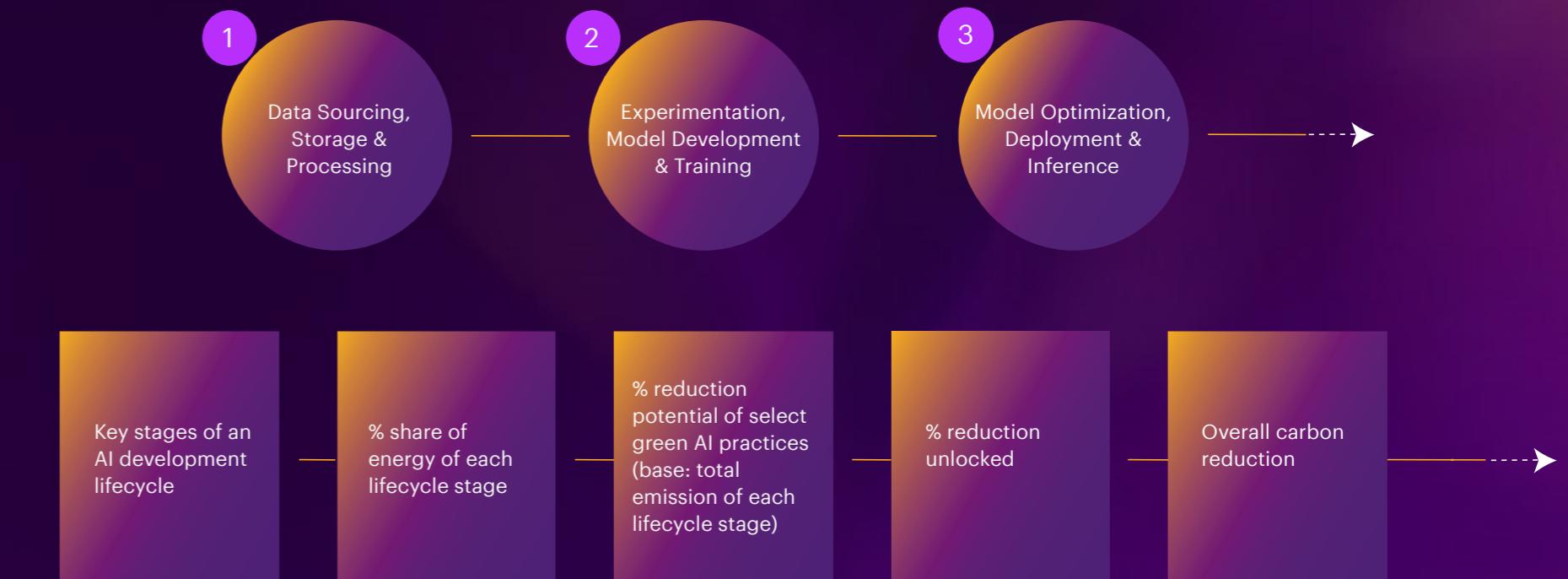
責任あるAI（RAI）の成熟度インデックスは、企業の成熟度と運用の成熟度の2つの主要な柱に基づいています。2つの柱に同等の重み（ウェイト）を加味し、その合計スコアで全体的なRAI成熟度指数を求ることで、企業のAIの取り組みの進捗状況を成熟度として包括的に把握できます。



# 方法論：持続可能なグリーンAIモデル

アクセンチュアは、グリーンAIの運用による二酸化炭素削減の可能性を評価するために、ライフサイクルアプローチを採用してAIライフサイクルの各段階（データ生成、保存と前処理、実験、モデル開発とトレーニング、展開および推論）における排出量を調査しました。調査ではまず、各段階の排出量の割合を定量化しました。次に、各段階で排出量を削減に効果のあるベストプラクティスを特定し、ベストプラクティスによる削減量と各段階の排出量の割合を乗算し、その効果を算出しました。このアプローチにより、ソフトウェア層を最適化することで排出量を削減できる可能性があることが分かりました。

また、ライフサイクルの全段階で使用されており省エネに貢献できるハードウェアの最適化の効果も算出しました。さらに、ITに特化した取り組みだけでなく、電力使用効率などインフラレベルでの最適化も組み合わせることで、大幅な削減を実現できる可能性が明らかになりました。そして最後に、より環境に優しい電力網からエネルギーを調達することの効果について、ソフトウェア、ハードウェア、インフラのすべての層の二酸化炭素削減の可能性を推計しました。この、アクセンチュアの包括的なアプローチでは、グリーンAIで達成できる総合的な排出削減量を予測することができます。



# 方法論：責任あるAIのタイム・トゥー・バリュー（TTV）モデル

タイム・トゥー・バリュー（TTV、価値を実現するまでの時間）のベースラインとシナリオ作成に使用したモデル入力とシーケンス

責任あるAIのTTVモデルでは、調査で収集した以下のデータを使用しています。

## 1. RAI導入計画のタイムライン

導入開始から経過した時間：  
企業全体の計画の一環として、RAIを正式に導入した時期に関する回答に基づいて推計した値

成熟度の進行状況：  
RAIインデックス（前ページを参照）の値の変化を、経過した時間と組み合わせて分析して、RAI成熟度のステージ間の移行にかかる平均時間を算出

## 2. RAIの資本的支出（Capex）

以下のデータに基づく。  
 1. 収益に占めるテクノロジー投資の割合  
 2. テクノロジー投資に占めるデータおよびAI予算の割合  
 3. RAIイニシアチブ（コンプライアンス、プライバシー、公平性など）はデータおよびAI予算の一部とし、純粋なセキュリティ予算は専門家の意見に基づき除外して算出

データおよびAI予算は平均的な増加が予想されるが、RAIの割合はRAI導入時のゼロから直線的に増加し、時間の経過とともに安定する。

## 3. RAIの事業運営費（Opex）

RAIの完全実装（RAI成熟度の「ステージ4」に相当）を前提として、今後3年間の事業運営費（Opex）の総額を算出

RAIの導入から完全実装まで、導入時のゼロから直線的に推移する。

## 4. 収益の増加

専門家の意見に基づき、純粋なセキュリティの影響を除外したうえで、今後3年間のRAIの完全実装が収益に与える影響を予測し数値を算出

収益の増加は、1年目から3年目にかけて直線的に進行するとみられ、この増加はステージ4に達する2年前まで続くと想定される。また、ステージ3に到達した時も増加する可能性がある。

## シナリオ分析

以下の要素の平均を使用して、ベースラインシナリオを作成します。

今回の調査では、RAI投資の速度が異なる3つのシナリオを作成しています。

### クイックシナリオ

ベースラインとして2年間の導入を前提とし、ベースラインの投資の3年目から5年目までの期間を2年間に圧縮しています。

### スローシナリオ

ベースラインとして2年間の導入から投資を開始し、ベースラインの投資の3年目から5年目までの期間を5年間に延長しています。

### 新規導入シナリオ

RAIの導入準備を行っていない状態から投資を開始し、ベースラインの投資の1年目から5年目までの期間を3年間に圧縮しています。

## 参考文献

- 1 Fortune 500 companies flagging AI risks soared 473.5% |Fortune
- 2 AI Index Report 2024 – Artificial Intelligence Index
- 3 Generative AI at Mastercard: Governance Takes Center Stage
- 4 How Mastercard Uses AI Strategically: A Case Study | Bernard Marr
- 5 From compliance to confidence: Embracing a new mindset to advance responsible AI maturity
- 6 Harnessing the power of AI to deliver more Intelligent Engine inspections | Rolls-Royce
- 7 The Aletheia Framework® | Rolls-Royce
- 8 The ALETHEIA framework in radiation oncology - Manchester Cancer Research Centre
- 9 Accenture's blueprint for responsible AI
- 10 Integrating ‘technology with heart’ : Allianz and Accenture’s insights on GenAI Case Study: The AI-Driven Path to Customer Centricity at Allianz
- 11 Adobe’s Journey to Generative AI Leadership with AWS | Adobe Case Study | AWS
- 12 Introducing Adobe Content Authenticity: A free web app to help creators protect their work, gain attribution and build trust | Adobe Blog
- 13 Adobe’s Firefly AI Hits 12 Billion Generations
- 14 Responsible AI Deployment (RAID) with NeoSkin
- 15 AI Index Report 2024 – Artificial Intelligence Index
- 16 Face-scanner Clearview agrees to limits in court settlement | AP News
- 17 Financial Services Responsible AI | Case Study | Accenture
- 18 Cybersecurity in the gen AI era | Accenture
- 19 Accenture Cyber Security
- 20 New Amazon AI initiative includes scholarships, free AI courses
- 21 [https://aws.amazon.com/blogs/machine-learning/scaling-rufus-the-amazon-generative-ai \[...\] er-80000-aws-inferentia-and-aws-trinium-chips-for-prime-day/](https://aws.amazon.com/blogs/machine-learning/scaling-rufus-the-amazon-generative-ai [...] er-80000-aws-inferentia-and-aws-trinium-chips-for-prime-day/)
- 22 AWS Trainium | AWS
- 23 Learn how Amazon SageMaker Clarify helps detect bias | AWS Machine Learning Blog
- 24 Amazon Bedrock Guardrails | AWS
- 25 Accenture and AWS Collaborate to Help Organizations Scale Adoption of AI Responsibly

## アクセンチュアについて

アクセンチュアは、世界有数のプロフェッショナル サービス企業です。アクセンチュアは、世界をリードする企業の中核にデジタル技術を実装することで、組織運営を最適化し、収益を拡大させ、また市民サービスの向上にも貢献するなど、お客様に対して目に見える成果を圧倒的な規模とスピードで創出しています。アクセンチュアでは、優れた才能でイノベーションを主導する774,000人もの社員が120カ国以上のお客様に対してサービスを提供しています。また、テクノロジーが変革の成否を分ける時代において、世界中のエコシステム・パートナーとの緊密な連携を図りつつ、クラウド、データ、AIおよび業界ごとの比類のなき知見、専門知識や、グローバル規模のデリバリー能力を最適に組み合わせながらお客様の変革を支えています。アクセンチュアは、ストラテジー & コンサルティング、テクノロジー、オペレーションズ、インダストリーX、アクセンチュア ソングの領域をまたぐ、幅広いサービス、ソリューションやアセットを活用して成果につなげています。アクセンチュアでは、成功を分かち合う文化や、360度でお客様の価値創造を図ることで、長期にわたる信頼関係を構築しています。またアクセンチュアは、お客様、社員、株主、パートナー企業、社会へ提供している360度での価値創造を、自らの成功の指標としています。

アクセンチュアの詳細は [www.accenture.com](http://www.accenture.com)を、アクセンチュア株式会社の詳細は [www.accenture.com/jp](http://www.accenture.com/jp) をご覧ください。

## アクセンチュア・リサーチについて

アクセンチュア・リサーチは、企業が直面する最も重要なビジネス課題に関するリーダーシップを生み出しています。データサイエンス主導の分析などの革新的な調査手法と、業界やテクノロジーに対する深い理解を組み合わせ、20カ国の300人の研究者からなるチームが毎年数百ものレポート、記事、意見を発信しています。世界をリードする企業とともに開発した、刺激的な調査結果は、クライアントが変革を受け入れ、価値を創造し、テクノロジーと人間の創意工夫を最大限に活かすのに貢献しています。

アクセンチュア・リサーチの詳細は [www.accenture.com/research](http://www.accenture.com/research) をご覧ください。

## AWSについて

2006年にサービスを開始して以来、Amazon Web Services (AWS) は、あらゆる企業や個人が業界やコミュニティ、生活をより良く変革するためのソリューションを構築できるように、世界をリードするクラウド技術を提供しています。

Amazonの一部として、私たちは地球上で最もお客様中心の企業であり続けることを目指しています。お客様の問題を起点として、そのニーズに合ったクラウドインフラを提供することで、お客様が絶えず革新し、これまで達成できると思われていた限界を突破できるように支援します。

AWSは、新規事業を立ち上げる起業家から、リインベンション（再創造）に取り組んでいる企業、社会貢献を目指す非営利団体、そして市民へのサービスをより効果的に提供しようとする政府や都市に至るまで、あらゆるお客様に信頼され、その事業、目標、アイデア、そしてデータを支えています。

免責事項：本文書の内容は、本文書が作成された時点で利用可能な情報に基づいています（作成日が文書のプロパティに記載されています）が、世界情勢は急速に変化しており、状況は変化する可能性があります。この内容は一般的な情報提供を目的としており、読者の特定の状況を考慮したものではなく、当社の専門アドバイザーとの相談の代わるものではありません。アクセンチュアは、適用される法律の範囲で、本文書の情報の正確性や完全性、またその情報に基づいて行われた行為や不作為について、一切の責任を負いません。アクセンチュアは、法的、規制、監査、または税務に関するアドバイスは提供しません。読者は、かかるアドバイスを自身の法律顧問またはその他の資格を持つ専門家から得る責任があります。本文書には、第三者が所有する商標が記載されています。これらすべての商標はそれぞれの所有者に帰属します。かかる商標の所有者による本内容の後援、支持、承認は明示または暗示を問わず、意図されたものではありません。